

琵琶湖部会一般意見聴取試行の会(2003.5.25 開催)結果報告
テーマ：これからの琵琶湖と川とダムを考える若者討論会

2003.5.29 庶務発信

開催日時：2003年5月25日(日) 13:30~17:00

場 所：大津商工会議所 2階 大ホール

参加者数：委員8名、他部会委員5名、一般傍聴者90名

1 本日の試行の会について

嘉田委員から淀川水系流域委員会の役割と本日の会の趣旨について説明が行われた。

2 一般からの意見発表と質疑応答

6名の発表者から各15分意見発表が行われた後、委員との質疑応答が各5分行われた。

金尾滋史氏(滋賀県立大学大学院)

発表内容：学生に何が提言できるのか；社会的利害にとらわれない、「国内移入種」が多いなどの学生の利点を活かし、新しい価値観をもって地域住民や行政との新しいつながりを作る、など

市橋宏文氏(京都精華大学)

発表内容：川と人との物理的、社会的「距離」をいかにして近く保つか；地方ごとの知恵や情報、さらには専門家の意見を共有し理解する、自分から自然に近づき体験する、など

北山泰三氏

発表内容：水の浄化技術の進展等が逆に水への関心を薄れさせているが、一方で琵琶湖や川の汚染が進んでいる。浄化にむけた長期的計画、技術的検討が必要、など

石山一光氏(京都精華大学)

発表内容：経済至上主義や権力集中から来る公共事業の問題点とそれに対する一般市民の責任、人と物や自然との「つながり」を再生する必要性、など

安東尚美氏(流域調整室 代表)

発表内容：治水が環境か、というくり方ではなく、治水も環境も土地利用も農業生産も含めた人間にとっての環境指標を提唱、わかりやすい治水や地域防災計画を求める、など

野田岳仁氏(Youth Water Japan 代表)

発表内容：討論会への提言；1) 淀川水系流域委員会に世代別部会を設置する。2) 「コミュニティの水を飲む」マイボトル(水筒)キャンペーンを行う。

3 自由討論

「若者の視点の特徴とは」「それをどのように社会参加の仕組みにしていくか」という論点をもとに、委員、発表者、一般傍聴者の間で意見交換が行われた。

<主な意見>

- ・若者は自由な意見を言える立場にあるが、その強みを知らない/自分が行動することで何かが動くという達成感を体験したことがある人は少ない/その機会は自分で作るか与えられるかだが、最初は与えられると入りやすい/家族、地域が出発点。「環境」というと「行政や専門家のやること」となり関心が薄くなる/自由に意見が言える反面、後ろ盾がなく実際に働きかける窓口がない/(社会人の場合は)組織に頼る気持ちが自分を縛る。スタンスを明確にすることが大事、など
- ・若者に伝えるには、メッセージを歌で伝える、クラブイベントなど若者独自の情報伝達手段、やり方を活用すべき/流域委員会は大きく宣伝することよりも長期的な視点で治水や利水をよりよくしていくことが目的/無関心になってしまっている人の意見を踏まえた提言を、など
- ・住民参加部会に世代別部会を/世代別に分けられない方がお互いに学べる/住民参加についてだけでなく、環境、治水、利水など幅広く若者に議論に参加してほしい、など
- ・本日の会のアウトプットは、どのようにして取り扱うのか。

本日の結果はホームページ等で公開し、今後具体化する際に部会や委員会で議論することになるだろう。

以上

このお知らせは委員の皆様にも主な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。審議の主な内容については「結果概要」を参照下さい。